



子どもを信頼して任せる ～子どもたちによる自治～

朝、廊下を歩いていると、1年生教室の窓際が、朝の光に照らされてきらきらと輝いています。よく見ると、子どもたちが作った吊し柿です。街中では、あまり見ることもなくなった吊し柿ですが、福住では秋から冬にかけて、よく見かける光景です。

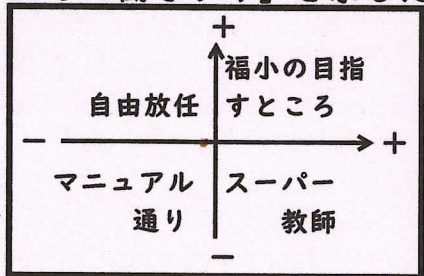
さて、福住小学校の児童会活動には、「きらめき委員会」「健康第一委員会」「ドキドキわくわく読書委員会」の3つの委員会があります。現在、その「きらめき委員会」で学校の決まりを話し合ってくれています。



その詳細については、本日、きらめき委員会からのメッセージと一緒に全児童に配布した「来年度に向けての学校の約束(案)」を、ぜひ、ご一読ください。また、昨日配布したお手紙のとおり、11月25日(水)には、「私服を着て学校に来てよい日」を実施して、問題点がないのか検討してくれることになっています。私服の日を設定して制服について考える企画(福住中学校でも実施されたようですが)は、本当に素晴らしいアイデアだと、感心しています。何かを決めようとみんなで意見を出し合っていくと、様々な問題点が露呈されてきます。それを、面倒くさがらず一つ一つ解決していく過程は、何事にも代えがたい貴重な経験になります。いずれにしても、学校生活について、1年生から6年生が自分事として考え、すべての仲間が楽しく過ごすことができるルールが作られることを、切に願っています。

子どもたちは、大人から「信頼されている」「任されている」と実感できるときには、細心の注意を払って、責任を持って行動しようとしています。もちろん、大人より経験も乏しいですし、様々な能力も未熟ですので、失敗はつきものです。しかし、その失敗をした時に、失敗を乗り越えられるように励ましてあげる大人がそばにいと、かえってその失敗が、子どもたちを大きく成長させます。何でも禁止というのは、子どもたちの成長を止めてしまいます。最も重要なのは、子どもたちが失敗したときに、我々大人がいつもそばにいて、励ましてあげることができるとかだと思えます。

右の図は、横軸が「教師の働きかけ」、縦軸が「子どもたちの働きかけ」を示したマトリクス図です。教師の働きかけがなく、子どもだけで活動している場合は、自由放任となります。逆に子どもが考える必要がないぐらい、教師がどんどん働きかけてしまうと(右下)、教師が、子どもたちを観客にしたスターになってしまいます。福住小学校は、決して自由放任(左上)ではありません。成長途上の子どもたちの未熟な部分を見据えながら、丁寧に見守っています。その上で、子どもたちを信頼し、任せる選択肢を少しずつ広げていこうとしているのです。



今後も、「学校の決まり」以外にも、自分たちの学校生活における諸問題について、自分事として考えて、自分たちで解決をはかっていくこと(子どもたちの自治)を応援していく予定です。保護者の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

～たくさんの先生と出会い～

11月は、たくさんの先生方との出会い、そして別れがありました。草尾先生が、5年生の担任になられた期間、スクールポ-トとして岡本先生と樋本先生が来られました。樋本先生は、今後体育実技補助として引き続きお世話になります。また、梅森先生が教育実習のため授業に入ってくださいました。たくさんの先生方と楽しく過ごすことができた霜月になりました。